

## 中国の金融引き締め観測を受けて、市場全体にリスク回避的な動き

2010年1月20日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部  
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

### 米医療改革法案成立の行方に暗雲も、株式相場は好反応

米国株式相場は大幅反発し、主要3指数そろって昨年来高値を更新しました。ほぼ全面高の中、上昇を牽引したのがヘルスケア株とハイテク株でした。米マサチューセッツ州における連邦上院議員補欠選挙で、医療保険改革に反対の立場を取っている共和党候補が優勢であると伝えられて、法案成立による業績圧迫が懸念されていたヘルスケア関連株が軒並み上昇となりました。ハイテク株は、好業績期待やアナリストによる投資判断引き上げ、新商品発表への期待感など、個別材料が好感されて総じて堅調でした。ただし、日中堅調だったハイテク関連株は、時間外取引では利益確定売りが優勢となりました。引け後に決算発表を行った米ハイテク株の10-12月期決算は増収増益となったほか、2010年通期のEPS見通しもアナリスト予想を上回りました。しかし、日中取引では業績への期待感から買われて昨年来高値を更新していたことから、時間外取引で大幅に反落し、他のハイテク関連株にも売りが広がりました。

為替市場では英ポンドが堅調でした。12月の英消費者物価が前年同月比+2.9%と大幅に上昇したことを受けて、量的緩和策が一時停止されるとの思惑が広がったことや、米食品大手による英製菓会社の大型買収が進展したことも買い材料となりました。一方、ユーロは幅広い通貨に対して下落しました。1月の独景況感指数が4ヶ月連続で低下したほか、ギリシャの財政赤字問題が引き続き重しとなりました。

### 中国の金融引き締め懸念が広がり、市場全体にリスク回避的な動き

日本株式相場は前日比+80円程度と堅調に始まりました。金融関連株やディフェンシブ関連株の一角は軟調でしたが、資源関連株中心に堅調でした。主力大型株が相対的に弱かったものの、中小型の電機や機械、自動車関連株の一部に高値を更新する銘柄が見られました。日経平均株価は寄り付き後はほとんど動かず、10,800円台前半で安定的に推移していましたが、値上がり銘柄数は半数程度しかなく、盛り上がりには欠ける展開でした。10時頃からは、為替市場では高金利通貨が軒並み下落基調となり、円が主要通貨に対して強含んだほか、アジア市場では中国株が下げ幅を拡大させました。こうした外部環境の悪化から国内株市場も上値が重くなり、後場から徐々に上げ幅を縮小させていきました。大引け前に前日終値を割り込むと、株価指数先物にも売りが増えて、そのまま本日の安値圏で引けました。

外部環境が悪化した一因は、中国当局による銀行融資の抑制姿勢を受けて、リスク回避的な動きが広がったためです。中国政府が今年の優先課題のひとつに銀行融資の管理をあげたことや、中国銀行業監督監理委員会が一部の銀行に対して融資制限を要請したことなどを背景に、市場では中国の金融引き締め観測が広がりました。上海総合指数はほぼ全面安となり、前日比▲2.9%の大幅安となりました。

明日はGDPなど、中国の主要マクロ経済指標の発表が予定されています。市場では中国の経済成長拡大期待が大きいことから、金融引き締め観測が一層高まることになれば、世界の株式市場全体の重しになることが予想されます。

以上